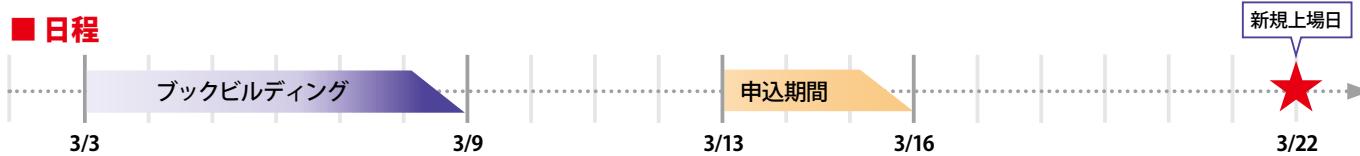


IPO銘柄 フルテック (6546・東証2部)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹事証券
6546	100株	公募: 60.00万株 売出: 51.92万株 (OA16.78万株)	540円~600円 (8.4倍)	野村証券



自動ドアの販売、設計、施工、保守を一貫体制で展開

■ 事業内容

自動ドアの販売、施工、保守を主力にステンレス建具の製造、販売を行う。自動ドアは販売の他、設計、施工、保守サービスまでを一貫して手掛けることを強みとし、北海道のほかに東北、関東へと地域を拡大させてきた経緯がある。仕入れは寺岡オートドアのほか扶桑電機工業などのメーカーで、センサーはオプテックス。自社研究開発と提携先との共同研究によって自動ドアの新商品や関連商品の開発も行う。14年8月に次世代自動ドアの「e-セービングドア」の販売を開始し、15年7月には自動ドアが太陽光で作動する「SOLAD」も投入した。建具関連事業はステンレスサッシとドアが主力製品。製造は子会社のアートテックスが担い、自動ドア開閉装置とのセット販売が中心となっている。その他事業では、駐輪システムや喫煙所システムなどを展開。17年3月期第3四半期累計(16年4~12月)の売上高構成比は自動ドア関連事業が69.2%、建具関連事業が24.0%、その他が6.8%となっている。

■ 特徴

自動ドアの販売を目的に1963年に設立され、自動ドアメーカーである寺岡オートドアの北海道地区代理店としてスタート。技術サービス部品を対象とした教育研修を計画的に行っており、施工品質や保守サービスの品質向上に尽力。国家検定である自動ドア施工技能士の資格取得養成にも力を入れており、1級および2級の取得者数は17年1月末時点で217名となっている。

アナリストコメント

■ 定量分析

17年3月期の連結経常利益は前期比20.4%減の6億4,800万円と予想する。建具などの大型受注が少なくなったことと、工期の延期によって労務費・経費が増加したことで減収減益見込みとなっている。保守契約など主力事業は堅調に推移している。仮条件の上限で試算した予想配当利回りは3.7%。

■ 定性分析

安定感はあるそうだが成長イメージは描きづらい業態。大幅な減益見込みがネガティブで、初値買いの入りづらい東証2部への上場案件。かつ3月後半の上場ラッシュの最中での登場ということもあり、厳しい状況となりそうだ。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は約8億円程度。東証2部への上場案件としては軽量級となっている。ベンチャーキャピタル保有株もなく、公開株式以外の株券は市場に流出しづらい構造。不人気が見込まれるも需給面には妙味がある。(小泉健太)

■ 類似企業

フルテック(6546・東証2部)	予想PER8.4倍 (仮条件上限)
日本空調サービス(4658・東証1部)	予想PER16.3倍
三機サービス(6044・東証2部)	予想PER27.1倍

■ 引受証券

野村証券、みずほ証券、SMBC日興証券、いちよし証券、SBI証券、岩井コスモ証券、エース証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
15年3月期(実績)	10,098	—	786	—	471	—	117.9	2.5
16年3月期(実績)	10,446	3.4	814	3.5	424	▲9.9	106.1	2.5
17年3月期(会社予想)	10,142	▲2.9	648	▲20.4	316	▲25.5	71.6	22.0

※ 15年3月期より連結決算。16年10月に株式分割(1株→40株)を実施。15年3月期、16年3月期のEPSおよび配当は遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
15年3月期	100,000	8,358	4,199	50	1,045.2	50.0	12.0
16年3月期	105,000	8,434	4,496	53	1,066.3	53.1	9.8

※ 15年3月期、および16年3月期のBPSは遡及修正

大株主上位(上場前)

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	ウェルマックス	1,195,920	26.00
2	古野 重幸	1,000,000	21.74
3	古野 豊	356,000	7.74
4	古野 元昭	208,000	4.52
5	フルテック従業員持株会	200,000	4.35
6	秋元 正雄	192,000	4.17
7	古野 直樹	136,000	2.96
8	古野 善昭	130,800	2.84
9	古野 廣子	109,600	2.38
10	田中 康之	102,080	2.22

経営陣

役職	氏名
代表取締役社長 社長執行役員	古野 重幸
代表取締役副社長 副社長執行役員	秋元 正雄
取締役専務執行役員 管理本部長	田中 康之
取締役専務執行役員 経営企画室長	大塚 孝彦
取締役常務執行役員	古野 豊
取締役常務執行役員 東京本部長兼 東京支店長	古野 元昭
取締役執行役員 東北本部長兼仙台 支店長	高桑 貴之
取締役執行役員 営業本部長兼駐輪 システム事業部担当	谷 浩
取締役執行役員 関東本部長	喜多見 光彦
取締役(監査等委員)(常勤)	小野寺 宣彦
取締役(監査等委員)(非常勤)	尾町 雅文
取締役(監査等委員)(非常勤)	岡崎 拓也

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO^(※1) レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング^(※2) が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。